

不気味な自動のこぎりが唸る！

人肉を切りきざむ音がする！

20世紀に人骨で家具を、人肉でソーセージを作りつづけたテキサスの狂人たち

想像を絶するこの大残酷を

全篇正視できるか？

ヘカラー作品

製作 ■ ジェイ・バーズレイ

監督 ■ タフ・フーパー

撮影 ■ ダニエル・バール

音楽 ■ ウェイン・ペル

マリリン・バーンズ

アレン・ダンズイガー

ポール・A・バーティン

アメリカ映画 / 日本ヘラルド映画

Herald

悪魔の いけにえ

"THE TEXAS CHAINSAW MASSACRE"



悪魔のいけにえ

＜カラー作品＞
アメリカ映画
日本ヘラルド映画



THE TEXAS CHAINSAW MASSACRE

へかいせつ

アメリカ映画史上、これほどの異様な興奮とパニックをもたらした作品はかつてなかった。たとえば全米の映画ジャーナリスト、批評家がこぞって批評を拒否したり、あるいは彼らによって「この作品にとってはあらゆる批評も無力だろう」という発言がなされたりする事態がそのままこの作品の異常さをもの語っているが、それではいいたい「悪魔のいけにえ」とはどんな映画なのか。

中西部あたりの荒涼とした平野、その平野を貫くハイウエーからずっとはずれた不便な土地に奇怪な家族が住んでいた。
悪魔といふか地獄の狂人といふか、この男だけ4人の家族の楽しみは世間のだれも知らなかった。もし知ったとしたら誰もが神に呪いのことをば吐いたことだろう。
テキサスの真夏。夏の休暇をステーションワゴンでドライブ旅行の計画をした5人、男の子3人、女の子2人。そのまま計画どおりにコトが進めば思い出多い夏休みとなるはずだった。

しかし思いもかけない不幸が5人を襲うことになった。舌なめずりをして待ち構えていた狂人の家族。その恐ろしい罠に彼らがかかってしまう。陰惨で狡猾、残忍としかいいようのない想像もつかない罠に。
その内容はとてもここに記すことができない。
映画を観る人のすべてが座席に針づけになつて恐怖の40分をすごすことになるだろう。

この映画は、いまから20年前、ウィスコンシン州で実際にあった事件をモデルにしているが、実はこうした病理的な犯罪というものは山の一角なのである。アメリカという国は時々想像も及ばない犯罪を生み出すことがある。それらの犯罪はしばしば、その犯罪者のパーソナリティを突きつめていくと人間という普遍の本質にまでさかのぼることもあるが、たいていはアメリカという特殊な社会、特殊な風土に生まれた個々のものである場合が多いのだ。

「悪魔のいけにえ」はそうした背景抜きには考えられないが、その恐怖、無気味さ、不快さはなまじ現実性があるためにいつそう迫力を増してくる。アメリカ本国では11月初頭に封切られたが轟々たる反響を巻き起し、2週目からはあまりのすごさに上映を取り止めるどころまで出現した。
スタッフ、キャストともにTV畑出身の新

人。とくに監督のタブ・フーパーという人のエネルギーに押しまくるパワーと迫力、切れのいい演出はこの新人の力がみなみならないものであることを示している。
撮影はタニエル・パール、音楽はウェイン・ベル（原題「テキサスの自動のこぎり大虐殺」カラー/ビスタ/1時間24分）

「へものがたり」サリー、ジュリー、フランクリン、カーク、バムの5人の仲良し5人組は夏休みを利用してドライブ旅行に出ることにした。
フランクリンは下半身マヒで車椅子生活の青年だったがだれ一人として彼の世話を厭うものはいなかった。フランクリンとサリーは兄妹だった。
中西部あたりの砂漠から荒野へ、湖沼地帯を抜け、畑の真中を通り、山を越える。
気のあった同士の旅は楽しい。

今日もまた抜けるような空のもと、田舎町を走っていると一人の若い男が道路脇に立つて親指を突き出している。
ヒッチハイカーである。
車を運転していたバムが停めるとその男が早速のりこんできた。
一見ヒッピーふうではあるが異様なムードの男である。しかも男は車内に入るといきなりナイフをとり出して自分の手に切りつけた。

濁った目、どもりがちの話し方。常人でないことかはつきりしている。
いそいで追い出したものの不快さはぬぐえない。この男がしばらくの後、ふたたびみんなの目の前に姿を現わして惨劇の立役者になるだろうとは誰も予想することができなかった。
夕暮近く、荒野の中の一軒家の前で車を停める。空家だったら今後の宿にしようというわけである。
……扉を開けて案内を乞う。しかし声がない。だが二つの光る目が奥から見つめていたのだ……。

近日ロードショー

丸の内東映パラス (535) 4740